

模擬国連 (Model United Nations) とは

学生が各国の大使になりきって、実際の国連の会議を模擬する活動。
最終的には大使同士で協力して決議案 (DR) を作成し、会議で話し合ったことをまとめます。

HOW TO START MODEL UN

0. 個人目標の設定

自分が会議に参加する中で、どのようなことに挑戦したいかを具体的に思い描いてみましょう。格好よく英語を話してみたい、人前に立つ練習をしたい、友人を増やしたいなど、参加者のはじめの動機はさまざまです。会議の終わりまでに積みたい経験や向上したいスキルなどを考え、目標を設定することを推奨します。

1. 会議設定の確認

まずは、参加する会議に関する4W：自分がどの国の大使として (Who)、どの議場で (Where)、何の議題で (What)、いつの時期 (When) を対象として参加するのかを「国割表」と「議題解説書」で確認しましょう。

2. 会議準備 (リサーチ)

模擬国連の醍醐味は、会議当日だけでなく、それまでの準備の過程にもあります。また、リサーチは当日の目標達成にも不可欠です。自国や議題にまつわる情報、これまでどのような議論がなされてきたのかなどを調べ、大使としての会議におけるスタンスを決めましょう。その際、考慮する必要があるのは国際社会全体の利益「国際益」と自分の担当国の利益「国益」の両方です。国際益と国益が一致するとは限りませんが、参加する議場において、参加国がどのような合意をできれば国際益と国益が最大限達成されるかを考えます。自分の政策が、他の国の大使の目にはどう映るかを予想し、会議当日の交渉の進め方の作戦を練るのもよいでしょう。

3. 会議当日

いかに他の参加者と協力できるかは大使としての腕の見せ所です。緊張するかもしれませんが、笑顔を意識し、最初の一步を踏み出す勇気が大切です。ひとつでもよいので、前の自分にはできなかった行動に挑戦してみましょう。会議は、公式討議

(Formal Debate) つまり各国大使によるスピーチを基本として進行します。その合間に、大使の提案などによってModerated CaucusやUnmoderated Caucusなどの動議 (Motion) が挟まれます。詳しくは、本委員会が発行している「模擬国連マニュアル」 (<http://jcgcc.accu.or.jp/manual.pdf>) をご参照ください。

4. レビュー

自分の会議行動をじっくり振り返り、最初に立てた目標の達成度を評価しましょう。反省も、得た自信も、今後の糧になるはずです。

リサーチの仕方や政策の立て方で煮詰まったときは、「現状 (問題意識)」「理想 (目標)」を整理してやるべきことを明確化するとよいかもしれません。

現状

政策

理想

絶対に守るべき国益・国際益を優先度の高い目標、長期にかけての実現を目指す利益を優先度の低い目標と分けて設定することもひとつの有効な方法です。